



坂野中学校在職当時の思い出

第16代校長 篠原 幸雄

坂野中学校は、私にとっては30年余りの教員生活で最初で最後の勤務校です。したがって、そんなに古い話でもないし、そんなに内容もたくさんありませんので思いつくまま書かせていただきますが、事実でない点などあれば御容赦ください。

まず、赴任して最初に気づいたうれしいことがあります。それは母校である坂野中学校の良き伝統がその当時も生きていたからです。春休み中に、職員が校舎内のいたる所でペンキ塗りをしている光景に出会いました。しばらくしてから、保護者や地域の人たちが奉仕作業として校舎内やその周辺の樹木の手入れと施設・設備環境の整備などを毎年実施していることも知りました。また、教職員が日ごろから校内各所の修理などする光景はよく見かけました。さらに、そんなことが背景にあると思うのですが、うれしいことに、生徒も教員とともにさまざまな形で学校内外での奉仕活動をしていることがわかったのです。

次に、長い年月の末に決着したプールのことを思い出します。坂野中学校には、市内でも早くから市民プールとして併設されたものがあり生徒が使っていましたが、ある時期に機械の寿命のためか故障して使用不能となったようです。その後、先輩の校長や保護者なども市当局にその修理や新設の話などいろいろ要望してくださっていたのですが、結果的には、壊れたプールはそのままで何の進展もなく時間だけが経過している状態となっていました。その頃、隣の坂野小学校に勤務していましたが、市当局の配慮で赤石の市民プールへ児童をバスで送迎してもらいながら水泳指導をすることを始めました。ただ、中学校の場合、当の生徒からは水泳指導にあまり人気がなく、どう対応したものかずいぶん困りました。ところが、最終的にはプールがなくても指導上問題がないらしいということがわかったことと、財政上の理由でプールも現状のままということで完全決着を見ずに退職になってしまいました。(現在、そのプールは撤去され、跡地も整備され有効に利用されています)

生徒指導上の問題はいろいろありました。新しい問題でもあり対応が難しかった事の一つに、携帯電話の問題がありました。生徒が持って来ることや使うことを禁止や制限をすることについて、口で言うことは簡単だが、その実効性があまりありませんでした。とは言っても、力で強制するだけでは教育としては不十分であるとの思いもあり苦労しました。そして、保護者が生徒に持たせてやろうというところまでいったときには、その対応は学校教育の限界を超えていると感じるところもありました。